

最近、グリーン・ツーリズムってよく耳にしませんか？

言葉からもイメージされるように、

なんか癒されそうな雰囲気なんだけど、

どんなことなの？って思っている人も

多いかもしれません。

秋田県内のグリーン・ツーリズムに取り組む

人たちを応援し、情報を発信している

『秋田花まるっグリーン・ツーリズム推進協議会』の

現地特派員・三人娘に、編集部が見つけたスポットを

案内してもらい、その楽しみ方と魅力の

ポイントを紹介していただきました。

楽しもう!! グリーン・ツーリズム

秋田花まるっグリーン・ツーリズム推進協議会
現地特派員が案内する

秋田の

Vol.1

秋田のグリーン・ツーリズム総合情報サイト

美の国秋田・桃源郷をゆく

現地特派員の3人は、農林漁業体験民宿や農林漁家レストラン、農業体験の受け入れをしている方々の活動などを県内くまなく取材しつつ、さまざまな体験にもチャレンジして、グリーン・ツーリズムを満喫している。その様子を秋田のグリーン・ツーリズム総合情報サイト「美の国あきた・桃源郷をゆく」で紹介している。ブログも更新中。新鮮な農産物同様、顔が見える生の声を届けようと顔に汗を流しながらも奮闘している。

県北担当
八柳好美さん

県央担当
山内優子さん

県南担当
高橋桂子さん

協力／秋田花まるっグリーン・ツーリズム推進協議会

秋田県農林水産部農山村振興課

秋田のグリーン・ツーリズム情報はこちら

秋田グリーンツーリズム

検索

<http://www.akita-gt.org/>



あきた グリーン・ツーリズム

作る

▲鹿角産「淡雪こまち」の米粉と地場の食材をトッピングするオリジナルピザやパン作り、『そばの里かづの』産のそば粉を使ったそば打ちなど、「食体験」メニューが充実しているのが特徴。パンやピザは本格的な石窯で焼き上げる。
▲森で見つけた木の実や小枝を使い動物などをモチーフとした森のクラフト作りは、童心に返ったような気分だ。学校の校舎というロケーションが、こんなにも心を和ませてくれるとは…。

作る



食べる



◀理科室を改装したレストラン『森のcaféこもれび』。「淡雪こまち玄米」入りのご飯をはじめ鹿角産の食材をふんだんに使い、プリンスホテルで研鑽を重ねた料理長・奈良さん(中渚小学校卒業生)が、腕によりをかけたオリジナルメニューは一級品。特製スイーツも自慢の逸品。舌の肥えた食通をも唸らせる本格派レストラン。人気の日替わりランチ(1,000円)のほかに、[写真左から]かづの牛ステーキランチ(2,000円)、ニジマスの淡雪こまち和風パスタ(1,200円)、かづの牛ハーブカレー(1,300円)、八幡平ポークソーセージの和風パスタ(1,300円)などのセットメニュー、ニジマスのふわ卵ピラフ(500円)などの単品メニューも充実。

ばいの校舎からは、子供達の明るい声が聞こえてくるようです。子供の頃の自分に逢えるような気分になれるから不思議です。」と今回案内してくれた八柳さんが話してくれた。以前テレビで観ていたこともあり、この学舎には思い入れが深いようだ。
中渚地区は、十和田湖を展望できる甲岳台や鹿角を大パノラマのように眺められる青嶺山にほど近く、そばを流れる大湯川やその支流に多くの滝が点在するなど、美しい自然環境に包まれている。
地名になっている「中渚」のほか、いくつも渚があり、渚巡りができるのが魅力だ。森の中に入ると自然にリラックスできる効果を「森林浴」と呼ぶのは一般に知られているが、その効果を科学的に解明し、「ココロと身体の健康に活かそうと」歩進んだものを「森林セラピー」という。学舎裏や周辺にはそ

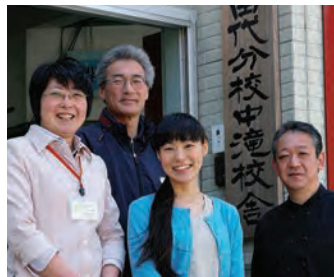
うした効果が体感できる「中渚森林セラピーロード」と名付けられた散策路が整備されている。小規模だが、十和田湖の深流にも勝るとも劣らない魅力あふれるスポットだ。
また、雄大でみずみずしい自然環境や元学校ならではの特性を活かした、さまざまな体験メニューが揃うのも魅力だ。童心に返り、心豊かになる。さらにその魅力に磨きをかけるのが、「森のカフェこもれび」だ。メニューが充実するほかに、優れた味の料理の品々が提供されている。静かに流れるせせらぎの音に耳を傾けながら穏やかに過ごすランチタイムは極上のひとときを約束してくれる。
「自然の恵みが与えてくれるもので、「ココロと身体をリフレッシュ!!」という八柳さんの、その言葉にまちがいはない。

県内を代表する名湯に恵まれた大湯温泉を通り、十和田湖に向かう国道103号沿いに、渚や森林に囲まれた大湯中渚地区がある。この一画にひっそりと佇むのが、中渚ふるさと学舎だ。
過疎化が進んだ中渚小学校は、およそ半世紀に及ぶ歴史に幕を閉じ、平成20年11月廃校となった。この地域はかつて開拓の地であった。昭和30年代に全国各地から若者がこの地へ来て営みを始め、子供達を通わせるようにと開校されたのがこの小学校。校舎の内外には今でも「開拓精神」と刻まれた標語が数多く飾られている。地域の人々や卒業生にとって、この校舎は思い出がざっしりと詰まったかけがえのない建物でもあった。廃校を偲び、その保存と再生を願う声が自然とわき上がった。
そして、廃校から一年半後の昨年4月に、旧中渚小学校は、「中渚ふるさと学舎」と名前を新たに、ふるさと体験や森林セラピーの拠点、地域の歴史の保存や紹介、地域の食材を用いたメニューを提供するカフェなどを備えた、交流体験拠点施設として生まれ変わった。



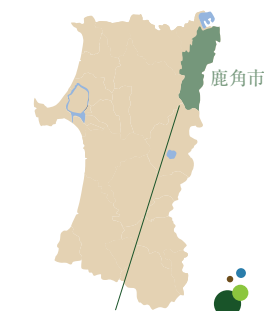
癒す

◀七変化のように風貌が変わる「銚子の滝」、晩秋の紅葉とのシルエットが絶景の「錦見の滝」、滝壺を覗くと岩魚の姿が見える「止滝」、など学舎の裏や周辺には渚のスポットが多い。
◀(左下)学舎内のセラピールームではリラクゼーションとヒーリングが体感できる。



交流体験拠点施設 中渚ふるさと学舎

鹿角市十和田大湯字白沢45-1
☎0186-30-4021 ㊟月曜(祝日の場合は翌日休み)
㊟9:00~16:00 ※カフェは10:00~16:00(L0/15:00~15:30)
㊟ケビン棟(全3棟) 1室 宿泊/6,000円 日帰り/3,000円
<http://www.ink.or.jp/~kazuno-furusato/>



GREEN | Tourism

@AKITA

鹿角市

歴史を物語る
校並木、校庭の遊具と
木陰のベンチ、さしむ廊下、
大湯川のせせらぎ…
五感を解放して
癒しの時間を
過ごしてください。



わたしがご案内します!! 県北担当 / 八柳好美さん





癒す

▲吹き抜けになっていて、天井が高く、バツグンの開放感のリラックスルーム。窓の向こうには木々が茂り、木漏れ日が入ることも。ベッドで休みながらの「ゆるるん」体験は、じんわりと温かさが広がり、体がリラックスしていくのがわかる。



作る



▲パーツの組み合わせから始めるストラップ制作。男性でも丁寧に教えてもらえるので大丈夫。奥様と楽しく会話しつつ、手作りのデザートとともにのんびりした時間を過ごしてみよう。完成品は、形やパーツでいろいろな表情があり、どの子も可愛くて、和む。



食べる



◀リラックスルームで提供されるのは、有機玄米や地元産の野菜などを使用した自然食料理で、肉や乳製品は使用せず、素材の甘みを活かすような味付け。取材時は、有機玄米粥、蒸し野菜、新玉葱のサラダ、タカキビとじゃがいものハンバーグ、ごぼうとさつまいものスープ、リンゴ寒天など。旬の野菜をふんだんに使い、みそ汁のみそはご主人の手作りなど、一品一品丁寧に作られている。カボチャと白あんのデザートは、やさしい甘みが口にひろがる。ここでいただく有機ほうじ茶は直売所で購入できる。



買う

◀直売所では、様々なオーガニックコットン製の商品が並ぶ。大人用・子ども用などサイズ展開あり。もちろん「ゆるるん」も販売。オーダーメイドにも対応してもらえる。

も美味しいヘルシーな食事と、贅沢なお昼寝。日常の喧騒を忘れてのんびり、ゆるるん。そんな1日も、いいかもしれません。」と紹介してくれた。

館内は木立に囲まれていて、ちょっとした別荘にいる気分になれる。このスポットがお気に入りの山内さんによると「天気の良い時は、ドアを開放して綺麗な空気を吸い込んで、森の香りに包まれると、ナラの木の森林効果で癒されます。新緑が目によさしいこれからの季節は、特に爽やか。」だという。もちろん、身体にやさしい自然食の旨味を存分に味わえる料理の美味しさはいうまでもない。ご主人の久巳さんも含めたお二人の飾らない人柄が、なによりのココロの癒しになっている不思議で楽しい空間がここにはある。



GREEN | Tourism

@AKITA

秋田市

自然素材って、いいネ 早春の森の中で リラックスタイムを過ごす

一風変わった名称からも連想できるが、自然環境のみならず、運営する嶋田さんご夫妻の柔らかな物腰が反映された、癒しのスポットだ。IKKOとは奥様の名前が育子だから。「いっこ」と呼んでいる呼び名と特製オーガニック素材の商品名「ゆるるん」を結びつけた。

秋田空港近くで、秋田橋台「ゴルフ場」向かう道路沿いからちよつと奥に入った、静かな木立の中に佇むログハウス風の建物が目印だ。

店名ともなっている「ゆるるん」は、秋田県産の有機玄米や米糠に有機ほうじ茶、沖縄産乳酸菌醗酵海水熟成塩を加えたものを、オーガニックコットン素材の布で包んだ保温具で、電子レンジで温めたり、冷蔵庫で冷やしたりして、頭、首、膝、腰などの身体の部位に温めて使用するもの。電子レンジで加熱したものは、冷え性や肩こりなどの改善に効き目があり、冷凍庫に入れたものは、冷涼感が寝苦しい夜に安眠をもたらし、熱中症対策にも活用できる。

オーガニックコットンは一般の綿畑で使っている化学肥料や、殺虫剤や除草剤などの農薬を3年間使わず、有機肥料を用い、天敵の益虫を活用して害虫駆除を行うなど、手間ヒマをかけた昔ながらの栽培方法で育てたコットン。自然の風合いを多く残して



新緑が目に見え、
鮮やかな季節、
贅沢なお昼寝セットで
のんびり、ゆるるん♪
ドアを開放して綺麗な
空気を吸い込んだら、
心身とも元気に
なれます！

秋田発いやしのぬくもり IKKOゆるるん

秋田市河辺畑谷字蟹沢142-58
☎018-881-3228 困不定休
<http://ikko-yururun.com/>



●リラックスルーム利用

化学物質に配慮した環境ハウスで、有機玄米付きの自然食を食べて、オーガニック保温具ゆるるんで昼寝してリラクゼーション。

◎毎週土曜・日曜・祝日限定※予約制
◎料金／1人2,500円(2時間・1組2～4名)
◎時間／11:00～13:00、13:30～15:30、16:00～18:00



わたしがご案内します!!
泉央担当/山内優子さん



▲2～3時間でできる簡単なみだれ編みのものから、完成までに2～3日かかるような本格的なものまで、希望に応じて作れる。ちょうどよい幅に皮を割くのだが、均一にするのはなかなか難しい。



食

◀地元産の食材を中心に提供される食事は、採れたての山菜など山の幸が豊富で、奥様が工夫を凝らしたメニューも多い。どれも温もりのあるやさしい味わい。左は山内産の里芋を使った、もちもち食感の「チーズ入りお焼き」と、お煎餅の衣が香ばしい「あんかけコロッケ」。



作

◀ご主人の作る味わい深いつる細工のカゴたち。使う素材やつるの幅、編み方などで、いろいろな大きさや風合いが楽しめるのも魅力。体験で自分だけのオリジナルを作ることができるが、販売もあり、小さいもので4～5千円から、大きなもので2～3万円くらいのもの为中心で、市場価格よりはるかにお手頃。さまざまな用途にあわせたものや、奥様の布アートとのコラボ商品もある。また、奥様の布アートは型紙に頼らずに創作されていて、一品ごとに違った味わいが。



また、この居間はお二人の仕事場でもある。ご主人の忠さんはつる細工、奥様の輝子さんは布アートがライフワークとなっている。

隣接するハーブ工房にはお二人の手作り作品が数多く飾られ、展示販売もされている。その値段は市場価格から考えると驚くほどリーズナブルだ。いずれも素晴らしいものばかりで、つる細工に目の肥えた方ならば垂涎的になることはまちがいない。

あけびのつるや葛を使ったかご編みは体験もできる。その日終わるものから、本格的に取り組むために数日通ったり、宿泊するなどして、チャレンジする人が多いという。

「周辺では簡単に手に入る葛だけど、そのほとんどは利用されていない。そのままにしておけば、ただ山を荒らすだけ。」と地域にある資源を活かすことができるのかと始めた忠さんのつる細工に、地域のお母さんたちも共鳴してその輪が広がっている。

「道の駅の直売所にも作品を並べれば面白いし、資源が活用されれば、山も少しすつきれいになっていく。」というのが忠さんの考えのようだ。

特派員の高橋さんもあけびのつる籠作りに挑戦したことがある。「5～6時間かかって完成。できあがった時に形が悪いなあといったも、うれしさがこみ上げてきました。自分が作りたいびつなごを毎日目にする度、愛着がわいてきます。みなさんもチャレンジしてみるといいですよ。」と話してくれた。

『輝湖』の魅力を十分に堪能できるには、やはり宿泊がおススメ。おもてなしは、地場産や忠さんの出身地である横手市内から取り寄せた食材をふんだんに使った料理。素朴だが、自然の旨味を活かした滋味という形容詞がぴったりの味わいが魅力だ。

眼前に田沢湖を臨みながら、旨い料理とお酒に舌鼓をうちながらゆつくりと時を過ごせるなんて、最高の贅沢かもしれない。

買



▲ご主人のつる細工や奥様の布アート作品のほか、ハーブクラフトなどを販売するハーブ工房。予約をしないで訪れても、商品を購入できるほか、店内でハーブティーやコーヒーが飲める。



My Herb Garden 農家民宿 輝湖

仙北市田沢湖濁字蛭児堂90-2
☎0187-43-0053 困ハーブガーデン月・火曜
☎1泊2食付7,000円 1泊朝食付4,000円 部屋／和室2室
<http://www.ntl63.ne.jp/herb/>

●体験内容

アケビづる・クルミ・山ブドウの皮などのカゴ編み体験、ドライフラワーの壁掛けリース作り※全て予約制。体験料金は予約時に。

神秘の田沢湖を臨み ゆったり、のんびり スローライフを楽しむ

田沢湖は日本一の深さを誇る湖。その湖水に差し込む太陽光は、水深に応じて明るい翡翠色から濃い藍色にまで湖面を美しく彩る。

その湖畔に面した1500坪の敷地に佇む大きなログハウス風の建物が目印。湖畔沿いの道路と建物の間には広いハーブガーデンと畑が広がり、花の観賞はもちろん散策も楽しめる。神秘的な彩りの田沢湖と周りの緑豊かなロケーションに囲まれ、時の過ぎるのを忘れてゆったり、のんびりと時を過ごせる。ロマンチックな施設の命名は奥様の名前「輝子」に由来している。ご主人の高橋忠さんと一人で切り盛りするハーブガーデンがある農家民宿だ。

ロフト付き二階建て72坪の館内の一階には畳40畳分の居間があり、そこから臨むのは神秘の湖・田沢湖。四季折々に彩りを変える湖畔を窓越しに観る景観を、今回案内してくれた高橋さんは「絵画を観るような気分」だと話してくれた。部屋に入ると、思わず歓声をあげてしまふほど美しい景色が広がる。宿泊者の食事処として使われているが、朝夕には風景も「おかす」になってしまうかもしれない。



GREEN | Tourism

@AKITA

仙
北
市

温かい
ご夫婦が教えてくれる
つる細工は、ずっと大切に
しようって思える
作品になるよ。
田沢湖を眺めながら
いただくお料理も
最高！



わたしがご案内します!!
県南担当/高橋桂子さん